
君なんかいなかったら...

しんた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君なんかいなかったら…

【Nコード】

N4841H

【作者名】

しんた

【あらすじ】

これはある一人の弱い少年の強い思いが現実を語る

胸の鼓動が早くなる。

足が重たい。知っているけど信じたくないけど、それが現実だけど、知ったの最近だし、なんで僕みたいな男にしたんだよ…

いつのまにか僕は彼女の前に立っていた。

「和…ごめんね。あたし…もう和とは一緒にいれなくなっちゃう。あたし…」

目に涙がたまるのがわかった。僕は君の目をみないように、涙がこぼれないように何処かへ走ってた。

行く先もなく、ただただ君の顔を想像しないように。僕は根性ないから。君みたいに強くないから。ただ傍に居ることしか出来なかったのに。なんで…なんで…今まで一緒にいたんだよ。なんで僕みたいな男といたんだよ。君ならもっと格好良くて、もっと…もっといい男彼氏に出来たのに。

なんでだよ。なんで。

後一週間だなんて。

どうすりゃいいんだよ…

ザッパーン…

僕は海に来ていた。

息を荒くして…

気づいたら僕は海に半分まで浸かっていた。

真冬の寒い中…

このまま進んだら楽になれるかなあ。

君の顔も匂いも何もかも忘れられるかなあ。

今までの思い出も。

でもいいのか？

君はこれで喜ぶのか？

そんなわけではない！！

僕が。僕が君に今からでも笑わせる事が出来るなら。僕はそれでいいんだ。

後一週間がどれだけ大事な日々になるか、僕は僕なんだから。強くなりたいたいから。君にもっともっとワクワクさせてあげたいから…僕が君の命を最後まで光らせてあげるんだ。

今はもういない君に捧げた思い。通じてるかなあ。

きつと通じてるよ。

だって僕は君がこんなに好きだから…。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4841h/>

君なんかいなかったら...

2011年1月23日03時42分発行